

神戸大学医学部附属病院 看護部ジェネラリストラダー(Ver.3)

		ラダーⅠ (入職後6ヶ月を目安に評価する)	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
看護の核となる実践能力	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得ながら看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択し、QOLを高めるための看護を実践する
	ニーズをとらえる力	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を得ながら患者・家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 □ 患者・家族の状況から緊急度をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自立して患者・家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 □ 得られた情報をもとに、患者・家族の全体像としての課題をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる。 □ 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 □ 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 複雑な状況を把握し、患者・家族を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる。 □ 患者・家族や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる。
	ケアする力	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を得ながら看護手順に沿った安全な看護が実施できる。 □ 助言を得ながら、患者・家族に基本的援助ができる。 □ 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づき安全なケアを実践できる。 □ 患者・家族に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる。 □ 患者・家族の状況に応じた援助ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる。 □ 患者・家族の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる。 □ 患者・家族の個別性をとらえ、安全な看護実践に反映ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族の顕在的・潜在的なニーズに対応するため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる。 □ 幅広い視野で患者・家族をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に安全な看護実践ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動かし、ケアを実践・評価・追及できる。 □ 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる。
	協働する力	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を得ながら患者・家族を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる。 □ 助言を得ながらチームの一員としての役割を理解できる。 □ 助言を得ながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる。 □ 患者・家族を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる。 □ 連絡・報告・相談ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護の展開に必要な関係者を特定できる。 □ 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる。 □ 患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる。 □ 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めていくことができる。 □ 患者・家族とケアについて意見交換できる。 □ 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる。 □ 多職種間の連携が機能するように調整できる。 □ 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 複雑な状況(場)の中で見えにくくなっている患者・家族のニーズに適切に対応するために、自立的な判断のもと経験者に積極的に働きかけることができる。 □ 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる。 □ 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる。 □ 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる。
	意思決定を支える力	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を得ながら患者・家族や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる。 □ 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族や周囲の人々に意思決定に必要な情報を提供できる。 □ 患者・家族や周囲の人々の意向の違いが理解できる。 □ 患者・家族や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 患者・家族や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 適切な資源を積極的に活用し、患者・家族や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる。 □ 法的および文化的配慮など多方面から患者・家族や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる。
組織役割遂行能力	レベル毎の定義	社会人、組織人としての自覚を持ち行動する 指導・助言を受けながら、組織のなかでチームメンバーとして役割を果たす	専門職業人、組織人として行動する 組織のなかでチームメンバーとして役割を果たす	所属する部署で組織的役割を遂行する 看護チーム全体の状況を捉えて行動する 基本的な看護実践の指導や助言を行う	所属する部署で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的役割を遂行する	所属を越えて、看護部や施設全体、地域社会から求められる役割を遂行する
	専門的・倫理的・法的な実践をする力	<ul style="list-style-type: none"> □ 自らの役割と能力の限界を十分に理解できる。 □ 自らの現在の能力や業務範囲を超える専門的な知識が必要な看護ケアを実施する場合は、実地指導者に相談できる。 □ 社会人、組織人としての自覚を持ち行動できる。 □ 日本看護協会発行の「看護者の倫理綱領」を知っている。 □ 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる。 □ 日本看護協会の業務基準やガイドライン、神戸大学医学部附属病院のガイドラインなどに沿って実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自らの専門的な判断と行動に対する説明義務や責任を持つことができる。 □ 院内ルールを守って組織人として行動できる。 □ 日本看護協会発行の「看護者の倫理綱領」を理解して専門職業人として行動できる。 □ 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる。 □ 日本看護協会の業務基準やガイドライン、神戸大学医学部附属病院のガイドラインなどに沿って実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 個人や集団のニーズが看護実践の範囲外である場合は、多職種に相談できる。 □ 倫理的課題に気づくことができ、相談できる。 □ 後輩育成の責務を自覚し行動できる。 □ 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる。 □ 日本看護協会の看護基準やガイドライン、神戸大学医学部附属病院のガイドラインなどに沿って実践できる。 □ 看護チームがガイドラインに沿った看護実践が行えているか評価しフィードバックできる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 多職種に対して看護の視点から意見を述べることができる。 □ 倫理的課題に対して倫理原則に基づいて状況判断し意思決定できる。 □ 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる。 □ 日本看護協会の看護基準やガイドライン、神戸大学医学部附属病院のガイドラインなどに沿って実践できる。 □ 所属する部署がガイドラインに沿った看護実践が行えているか評価しフィードバックできる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 専門職間で課題が発生した時に多職種を含めた調整的役割を果たすことができる。 □ 倫理的課題が発生した時に多職種を含めた調整的役割を果たすことができる。 □ 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる。 □ 日本看護協会の看護基準やガイドライン、神戸大学医学部附属病院のガイドラインなどに沿って実践できる。 □ ガイドラインに沿った看護実践が行えているか評価し、所属を越えて関連部署との調整を図ることができる。
	マネジメントする力	<ul style="list-style-type: none"> □ 指導・助言を受けながら仕事に優先順位を付け、時間を有効に管理できる。 □ 院内災害対策マニュアルの存在を知っている。 □ 医療安全および感染マニュアル存在を知っている。 □ 災害時の避難経路が理解できる。 □ 患者の搬送方法(担送・護送・独歩)が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 仕事に優先順位を付け、時間を有効に管理できる。 □ 災害時に所属部署のアクションプランに基づいて行動できる。 □ マニュアルを見ながら感染防止の手続き、安全対策を実施できる。 □ 健康増進と保険教育に関する知識や資源を活用できる。 □ 同僚看護師および看護師以外の職種との建設的な協力関係を確立し維持できる。 □ その能力と実践範囲に見合った活動を他者に委任できる。 □ ケアを部分的に他者に委任する場合にも、自らの説明義務や責任を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 仕事に優先順位を付け、時間を有効に管理するように指導できる。 □ 災害時に所属部署のアクションプランに基づいて指示指導ができる。 □ 患者におよぶ危険を予測し安全対策を指導できる。 □ 国民健康保険・介護保険および社会福祉政策を理解できる。 □ 自立した生活を維持するために支援(教育)できる。 □ 個人・家族・地域社会を対象とする様々な教育および学習に関する知識を応用できる。 □ 多職種の効果的な知識を活用できる。 □ 多職種のメンバーとともに、ケアを再検討し、評価できる。 □ 多職種による意思決定において患者、家族の視点を考慮できる。 □ 他者に依頼したケアを確認し、指導できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護の専門性を発揮し、所属する部署が効率的な看護実践を行えるよう時間を調整できる。 □ 所属する部署で災害時のアクションプランの作成やその評価、見直しに参画できる。 □ 所属する部署で定期的な災害訓練を計画・実施できる。 □ 業務手順、マニュアル、チェックリストなどの改善に協力し役割を果たすことができる。 □ 所属する部署で健康増進や疾病予防に指導的役割を果たすことができる。 □ 協力関係を維持して、効果的な職種横断的なチームワークに貢献できる。 □ 多職種の役割とスキルを高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 所属を越えて災害時のアクションプランの作成やその評価、見直しに参画できる。 □ 所属を越えて定期的な災害訓練を計画・実施できる。 □ 不測の事態や状況の変化に対応し効果的に対応できる。 □ 多職種や地域社会と協議できる。 □ 健康を左右する多様な要因を考慮に入れて、全体的な視点から個人・家族・地域社会をとらえることができる。 □ 個人・家族・地域社会に適切な保険関連情報を提供し、最良の健康やリハビリテーションを得る事ができるよう支援できる。 □ 患者に関する意思決定を多職種とともに行うことができる。
専門性の開発能力	レベル毎の定義	指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気づく	自己の教育的課題を見いだす	自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開する	自己の教育活動に積極的に取り組むとともに、教育活動について指導的な役割を実践する	単独で専門領域や高度な看護技術などについて自己教育活動を展開する 組織的研究活動を実践する
	専門性を開発する力	<ul style="list-style-type: none"> □ 指導・助言を受けながら、自らの実践を定期的に見直すことができる。 □ 職能団体の活動を理解し、自分がその一員であることを意識できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護の専門的イメージを促進し、維持できる。 □ 自らの基本的な看護の実践を定期的に見直すことができる。 □ 生涯学習の責任を引き受ける必要性を理解できる。 □ 職能団体に所属し講演会や研修に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自らの実践を定期的に見直すことができる。 □ 継続教育および能力維持のニーズを満たすよう行動できる。 □ 職能団体・学会に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 効果的な役割モデルとして行動できる。 □ 所属部署で看護の提供において主導的役割を示すことができる。 □ 役割モデルとしての自らの実践を定期的に見直すことができる。 □ 学生および同僚の教育活動について指導的な役割を実践できる。 □ 効果的なメンターとして行動できる。 □ 職能団体・学会に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護実践発展への貢献において、また、ケア基準を改善する手段として、組織的研究活動を実践できる。 □ 看護およびヘルスケアの提供において多職種と連携し、看護の専門性を示すことができる。 □ 全人的、分析的、効率的に実践した看護を自ら定期的に見直すことができる。 □ 自己および同僚の専門領域や高度な看護技術の専門性の開発に貢献できる。 □ 多職種の人と共に学ぶ機会を設定し、参加できる。 □ 確かな根拠を示し看護実践の質を評価できる。 □ 専門領域や教育的課題の達成に向けた学会に所属できる。 □ 職能活動に参加できる。